

至 仏 山 山 行 報 告

y.h.c. 笠 原 正 雄

目的地	至 仏 山 (山ノ鼻から東面登山道)	期 日	平成 11 年 10 月 16 日 (土)
山人	笠原正雄・大橋憲幸・寺塚和人(長岡市)		

地 点 名	(着)～(発)	天候	記 事
与 板	午前 4:30 発		雨飾山を第一候補としていたが、降水確率をみて至仏とした。
谷川パーキング	6:08～6:28	小雨	長岡 I C 手前で寺塚と待合せ、谷川 P で朝食。
戸倉駐車場	7:40 着	曇	天候があまり芳しくないせいで比較的空いていた。タクシー乗り換え。津奈木橋付近から林道沿いの紅葉がきれいになってきた。
鳩 待 峠	8:16 発	霧	小至仏方面からの下山口を左に確認し雨上がりで滑りやすい木道を下る。山ノ鼻手前で前を進んでいた歩荷が足を滑らせ転倒した。失神寸前状態だった。荷をほどこき皆で手分けして至仏山荘まで運んでやる。
山 ノ 鼻	9:15～10:10	〃	寒さを予想し頂上での昼食を避けるため、休憩ベンチで時間の早い昼食を取る。子持村モツ煮をあたたためて三人皆でつつく。一時霧雨となるも止む
森林限界標識	10:00～10:05	〃	木道を 5 分ほど歩き登山口。届ポスト有り。但し用紙品切れ。左記標識の後、木製階段や歩きにくい石の道。途中もう 1 回立ち休み。一瞬の霧の切れ目から背後に尾瀬ヶ原の池塘が見えた。一同歓声。
中間点標識	11:19	〃	途中鎖 3 ケ所あり。小至仏周りの下山者が降りて来るが、足元泥汚れ。
休憩デッキ	11:33～11:43	〃	頂上まで石と木階段の直登で、平坦道は全く無し。デッキは数カ所あり。
山 頂	12:26～1:00	曇	20 人位先客。ゴロゴロした岩。西の水上側からの風が寒い。ツェルトをかぶりウイスキーでしばらく過ごす。寒さを堪えながら食事のパーティーがいたが、我々は早昼食をしておいて正解だった。写真を撮り下山。
小至仏山頂	1:28	〃	尾瀬という響きの良い言葉と相違した荒々しい岩場の道。更に風が寒く急ぎ足で下る。小至仏山へは少し登り返し。雲の切れ間に尾瀬ヶ原。
休憩デッキ	1:45～1:56	〃	風も無くなり心地つく。池塘と鳩待峠そしてアヤマ平が望める。しかし至仏山頂・燧ヶ岳は雲の中。右手奥に武尊、正面に日光方面の山が一時雲間に姿をみせた。
オヤマ沢田代	2:00	〃	到着間まじかに晴れ間となって、今日始めて至仏の全容を見ることが出来た。休憩舎で一服。冬囲い作業が始められていた。
鳩 待 峠	2:56 着		
木賊温泉入浴		〃	川場方面に迂回し、武尊登山の際利用した木賊で入浴(500 円)。
長岡・レストラン羽賀	7:30		寺塚車を自宅に入庫し、3 人でハンパキ。y.h.c. 田村さんに帰着電話報告。
与 板	9:30 着		

大橋氏と寺塚氏との約束から、この日いずれかの山へ行くこととしていた。あまり平易なコースでは満足してもらえそうもないと思っていた。時期、天候とも条件がきびしかったが、万全を期して出発した。特に初登山の寺塚には、印象深いものとなったことと思う。これを機に山を好きになってくれたら幸甚の極みである。このコースは以前から登りたいと思っていた、特に 6 月末に現地まで行きながら入山禁止で断念した経緯がある。逆コースの入山者の方が圧倒的に多いが、東面の急坂は下りにとるより上りの方が良いと思う。